

にゆうす★らうんじ

六一年前半支部活動報告

一月十四日 新年総会(銀座・東急ホテル) 一月二十五日 関西支部総会(大阪・新阪急ホテル) 二月十四日 常任幹事会(日本鋼管高輪クラブ)

母校からのお知らせ

65周年記念同窓会総会 二月二十七日(日)午後四時半から 高知・三翠園。会費は四千元(学生二千円)。講演 宮地貴一氏(二回・前文部省事務次官「今日における教育の課題」)

新名簿作成中!

同窓会本部では現在新名簿の作成中で本年末には完成の予定。住所等の変更はお早めにご連絡を。

同期会をしました

三三三回 六月七日 昼の部 富士小山GC 夕の部 渋谷東急文化会館 夜の部 都内各所 出席者は36名 事務所移転

三陽美術印刷株式会社

(二八回・東條稲夫氏) 豊島区南大塚三丁目三八一(正和ビル) 電話〇三一九八一 一三〇七九・五九六二(六一・一・二七より)

六本木司法書士合同事務所

(四一回・横原温幸・鶴和千秋両氏) 港区西麻布一八二〇エメロード西麻布三階 電話〇三三四七〇一〇五五 (六一・四・一五より)

日章造園株式会社

(三三三回・澤村良節・千原望両氏) 目黒区下目黒三二八一五 電話〇三三七一六三二二 (六一・七・一より)

筆山会だより

三根校長墓参の会

第十一回三根校長墓参の会は七月十九日(土)午後行われ、多摩墓地での墓参のあと、深大寺そば屋で懇親会を開いた。 第10回筆山会ゴルフコンペは6月29日、小雨の千葉国際C・Cで行われた。北岡支部長をはじめ二二名が参加、土

佐井で舌戦をくりひろげた。

①野波博泰 26回	86	G
②浅井伴泰 30回	90	H
③溝淵真清 32回	95	21
④宮川洋治 33回	88	25
⑤竹崎 正 48回	98	18
(その他の参加者)	73	70
北岡龍海 5回	88	25
山本高敬 25回	95	21
近沢節夫 26回	98	18
阿部辰雄 30回	98	18
澤村良節 33回	98	18
浮舟与之 33回	98	18
藤沢 信 37回	98	18
中島 宏 38回	98	18
谷 隆 38回	98	18

編集後記

旧制高校卒業生や、共学だった母校が女子高(男子校)に変わってしまったりは、後輩や同性的の輩が新たに誕生しないということ、かなりのさびしさを味わっているのではないかと想像される。

母校の地盤沈下が著しい、ということも、母校が母校でなくなってしまうようなさびしさを覚えるものだ。一日も早く元の活力をとりもどしてもらいたいと願うこと切である。

今回は四名六冊しか紹介できなかったが、今後とも会員の著者や訳書を掲載したいと思います。発行の節には事務局までご寄贈ください。 また、同期会を催した場合も一報ください。

筆山

第2号/1986・7



↑ '86新年総会にて

ゆたかなくらしのパートナー...

東京支店/千代田区内神田1-13-7 (電)03-291-3411 本店/高知市南はりまや町1-1-1

四国銀行

有利で便利な
①期日指定定期みづぼ
 ●1年複利で高利回り/●1年間の満期後は期日自由/

ムリなく貯まる
②自動積立定期ふゆめ
 ●1回ごとのお預け入れを「みづぼ」でお積み立て/

どうぞよろしく/
「四銀」の強力コンビです。

二百人が青春した夕べ

'86新年総会風景



塩田潮氏の講演も



土佐中・高同窓会関東支部の一九八六年総会が一月四日、母校から松浦勲校長、同窓会本部から片岡博彦幹事長、関西支部から北村支部長を迎え、東京・銀座東急ホテルで開催された。北岡龍海支部長挨拶、会則・役員承認、校長挨拶などに続き、ノンフィクション作家、塩田潮氏（40回）の時宜を得た講演が行われた。

そのあと、会場を別室に移し、懇親会が行われた。本年は、昨年のように積極的な出席勧誘をしなかったにもかかわらず、二百余名の出席を得た。これは、総会に出れば必ずなつかしい顔に会えるという評価が定着したものと云えよう。あたりはばからぬ「おらんくことば」が跳梁はつこした楽しい一夜だった。



しんぶん切りぬき帖（高知新聞の記事より転載）

県外の私立進学中へ58人

県下の新中学生的うち約六十人が、藤井中（香川県・愛媛県）など県外の私立進学校に入学する。昨年と比べ八割も多い大増進。進学動機には、県内高校の大学進学実績に対する物足りなさもあるが、特待生制度を設け私立とタイアップした県外校の積極的な生徒勧誘の実態があり、教育界の論議を呼び起した。

本社の調べによると、県外私立中への進学者数は五十八人で、内訳は別表の通り。実際に進学したのは四校だが、合格者は七校百八十三人。このなかには東京都の開成、兵庫県の神戸女学院など全国屈指

立進学校に入学する。	31人	4人
去年と比べ八割も多い大増進。	4人	000
進学動機には、県内高校の大学進学実績に対する物足りなさもあるが、特待生制度を設け私立とタイアップした県外校の積極的な生徒勧誘の実態があり、教育界の論議を呼び起した。		

話題

果は、学三に
とつてはま
に宿願達成だ
ろう。

学三高健闘

が、このほかにも見逃せない面がある。学校全体に（土佐高に対する）劣等感をハネにした、なんとかせんといかん、という危機意識がありましたね。これが、ある意味で最大の原動力じゃないだろうか。

偏差値教育が問われ、東大合格者数で揺るぎかけている。東大合格者数で大幅に伸びたのは批判もあるが、新興学三が老舗（しにせ）土佐に勝ったのはやはり一つのニュースだろう。学三健闘には、いくつかの要因が

挙げられる。まず教員については、多数を占める関係者からの在職者が経験を積み、力をつけたのが大きい。加えて進路指導部（十四人）、研修制度の充実がある。進路指導では、能力別クラス編成（アルファ組、ベータ組）の導入や医大対策、難関対策もある。細かい補習が効果を上げています。

ずっとナンバー二に甘んじてきた立場。追手前高の追い上げ、かつては、教員処分をめぐる校内のあつれきもあった。最近生徒の県外流出で、県下私立校の在り方が一部うんぬんされ始めた。学校の命運を左右しかねない状況下で、教師集団が一致団結し燃えたというところだろう。しかし、危機感を感じて奮起しなければならぬのはひとり学三高だけだろうか。

もちろん学三高だって、来年以降も好成績を上げる保証はない。名門土佐高も巻き返しを図るだろうし、公立高も進路指導校を中心に取り組みを強化する態勢を整えつつある。学三高の頭張り、高知の学力向上の刺激剤になればよいのだが。

（森沢孝道）
（高知新聞夕刊）

の名門進学校も含まれており、広域的な受験志向がうかがえる。

昨年の県外進学者は三十二人（推定）。昨年と比べると藤井が十七人、ラサルが四人増えたが目立つ。また富士（とみす）愛媛県大洲市へは県内から初めての入学。

県外進学者の急増した最大の理由は、学校側のスカウト攻勢とみられる。従来、県外校を志望する生徒は県外に出向き受験していたが、藤井と富士は六十一年度募集から高知にも試験場を新設した。その点が受けたよう、藤井は百三十七人、富士は六十八人もの大増進があった。

愛光は県内に試験場を設けてないが、県内各地でこまめに学校説明会を開催。生徒勧誘に努めている。

どのケースにせよこれらの学校が生徒を大量に集められる背景には、高知市内を中心とする少数の塾との密接な協力関係があらわだ。また、入学金、授業料免除などの特待生制度を設け、優秀な生徒を集めているのも共通した点だ。

いずれにしても、生徒の県外流出を左右するのは、県内

高校の大学進学実績への評価。今春、愛光九人、開成、ラサル各四人などの合格者を出した高知市の占野塾の占野牧人塾長は「私たちも生徒を地元に残したいが、ラサル、愛光と県内の私立高としては東大など有名大の合格者に差がありすぎる。例えば土佐高が毎年、東大に三十一人合格者を出すと流れは変わります」と県内私立校の物足りなさこそ原因と分析する。これに対し、みその学舎（高知市）の久武恒雄塾長は「生徒を県外に出すべきではない。東大にいても、この春、学三は十人、土佐は九人の合格者を出し健闘している。優秀な生徒を残し、私立、公立の進学校がより高い次元で競い合うようにすべきだ」と主張している。

藤井28、愛光22人 ラサルも4人と富士に

（高知新聞）

校名	都県	合格者	入学者
藤井	香川	100人	28人
愛光	愛媛	39人	22人
ラサル	香川	3人	4人
富士	香川	1人	4人

随想

母校をみんなでもり立てよう

浅井 伴 泰 (30回)

昭和六一年五月二四日の神宮球場。対立教戦どたん場九回二死、東大浜田主将(五八回生)のバットが空を切り、東大野球部の通算「輝ける一、〇〇〇敗」として、マスコミの話題になった。東大野球部史上最多一七勝投手の岡村甫氏(三二回生)、キャプテンとして活躍した片山直久氏(三八回生)もそれぞれの青春に思いを馳せたことだろう。

当面のライバル学芸高は、父兄の要望にこたえて、浪人生のための予備校「高知学芸進学アカデミー」を四月から開校し、アフターケアに力を注ぐ。一方、福島清三氏(二九回生・土佐塾々長)は、少数精鋭の英才教育を目的とした中学・高校を開校する予定で、皮肉なことに故大嶋校長のご子息が校長に就任されるという。比較的平穏な鎖国

東大合格者数で学芸にぬかれる

東大といえば母校のことが気がかりである。今春の入試で母校の東大合格者数が一〇対九(現役七対四)と初めて学芸の後塵をはいした。もっとも他の大学への実績では、いぜんとして優位に立っている。東大合格者数だけで

大ざわぎするつもりはないが、必ずしも樂觀を許さない状況のようだし、スポーツ面でも以前ほどの精彩がない。それらを反映してか、中学進学者の県外への流出もかなりの数にのぼっており、しかも母校入試上位成績者の流出比率が高いという。このままの状態が続けばゆゆしき問題だ。

母校に志願者調査対策委が発足

このような情勢に対処するために、最近母校では、先生方の総意で、「土佐中・高志

願者調査対策委員会」が発足したと聞く。多少おそきに失した感はあるが、その成果を期待したい。また在校生の学力向上策も具体的に検討されていると思うが、その効果の一日も早く、上がることを祈る。学芸の教師集団が危機意識をもって、一致団結して燃えたように頑張ってほしい。先生たちのやる気を、ひき出すのは校長であり、サポートするのは理事会だ。

高知財界の重鎮で構成されている理事会に、同窓生代表として中島曉氏(十回生)、岡村甫氏(三二回生・顧問)が加わった。願わくは、経営者の目で現状を分析し、再び文武両面において、母校が活性化する環境づくりを考えてほしい。

県体 5年ぶり優勝の庭球

バドミントンは4年連続

◇県体の記録◇

〔庭球〕男団体優勝Ⅱ土佐 2-1 高知。男複優勝Ⅱ中岡・石川(土佐)。男単二位Ⅱ中岡(土佐)▽女団体二位Ⅱ土佐0-3 高知。〔バドミントン〕男団体優勝Ⅱ土佐2-0 学芸。男単優勝Ⅱ谷(土佐)。男複優勝Ⅱ山

〔ハンドボール〕男優勝

◇高校将棋選手権予選

個人男子で土佐高三年の山下桂志君が優勝。また団体も土佐(掛水、寺尾、門田)が優勝、八月の全国大会(東京)に出場する。

◇全日本リコーダーコンテスト金賞に吹奏楽部。

6月23日と24日にした事



竹 邑 類

(演出家/35回)

う日迄こぎつける事ができた。新聞・雑誌・TVの取材の応待等、稽古以外の雑事も増えて、一日中慌しく動き廻る。

六月二十四日。朝十時、風邪薬「ベンザ」のCFの為の振付の打合せ。小泉今日子ちゃんが踊るそうだ。森下町のベニサンスタジオも今日が最後の日、一時間始に駆けつける。電話で僕の主宰するスーパー・カム

パニイ九月公演「マクベス」の宣伝写真どりの日時変更の連絡を受け取り、再びスケジュールの調整を計る。ベ

●今、こんなことやってます②

七月一日の夜九時半に決定。例のヴァカンス、バリ島の太陽に会えるぞ。



支部会則が発効しました

二千円の年会費納入にご協力を

関東支部の会則が去る一月開かれた新年総会で承認されて発効、同窓の皆様から年間

◆会費納入方法◆
「郵便振替口座」
東京7-142816
「土佐中・高同窓会関東支部事務局」あて振込み。
または各学年の幹事に直接お渡し下さい。

二千円の会費制は、支部活動を支える柱です。現在関東支部の会員数は約二千人。総会案内の通信費だけでも二十万円ほどかかります。従来は広告代や寄付などでまかなってききましたが、今後予想される会員増に対処するとともに、支部活動をより一層充実したものとするため会費制の導入が検討されてきました。昨年六月の常任幹事会、十月の学年代表幹事会で慎重な討議がなされた結果、会則の原案が決定し、新年総会で承認されました。

土佐中・高等学校同窓会関東支部会則

【名称および事務局】

第一条 この会は土佐中・高等学校同窓会関東支部と呼ぶ。

第二条 この会の事務局は(株)同学社内に置く。

第三条 この会の会員は、土佐中・高等学校の卒業生で東京・神奈川・埼玉・千葉・茨城・栃木・静岡・山梨・群馬の1都8県に在住する者とする。ただし、これ以外の地区在住者や中途転学者であっても希望者は会員の資格を有する。

【目的】
第四条 この会は、会員相互の親睦を図り、あわせて同窓会本部と連携を保ちつつ母校の発展に貢献することを目的とする。

【役員】
第五条 この会に次の役員を置く。

1. 支部長 1名
2. 幹事長 1名
3. 副幹事長 2名
4. 事務局長 1名
5. 会計 1名
6. 学年幹事 1回～27回各1名。28回以降各2名。
7. 常任幹事 20名前後
8. 会計監査 2名
9. 顧問 若干名

第六条 学年幹事は各回ごとに会員が選出する。支部長、幹事長、副幹事長、事務局長、会計、会計監査は学年幹事会で選出し、常任幹事は幹事長が任命する。また、顧問は支部長が委嘱する。

第七条 1. 支部長はこの会を代表し、会務を総理する。
2. 幹事長は幹事を代表し、各回の意向をこの会に反映する。また支部長に事故のあった場合には支部長の任務を代理する。
3. 副幹事長は幹事長を補佐する。
4. 事務局長は事務一般を担当する。
5. 会計は経理を担当する。
6. 学年幹事は各学年の代表として各回の意向を反映し、会の中心となり円滑な運営に参加する。
7. 常任幹事はこの会の企画推進にあたる。
8. 会計監査は会計を監査し学年幹事会にこの経理を報告する。
9. 顧問はこの会に関する諸事項について必要あるとき支部長から相談を受ける。

第八条 役員の任期は2年とし、重任をさまたげない。

【会 議】

第九条 この会の会議は総会、学年幹事会、常任幹事会とする。
第十条 支部長は毎年一度総会を召集し、学年幹事会で決定した重要事項を総会に報告し承認を求める。

第十一条 学年幹事会は毎年一度以上または支部長が必要と認める時開催し、次の諸事項について審議する。

1. 役員の選出
2. 会計報告
3. 事業計画及び事業報告
4. 会則の改正
5. その他の重要事項

第十二条 幹事長は常任幹事会を召集する。

第十三条 会議の決議は出席者の過半数の同意を必要とする。

【会 計】

第十四条 年間の会費は2,000円とし、会報の発行をはじめ事務連絡費・通信費等運営資金に充てる。ただし、学生からはこれを徴収しない。

第十五条 この会の会計年度は毎年1月1日から12月31日までとする。

【付 則】

第十六条 この会則は1986年1月14日から発効する。

インタビュー

この六月に文部事務次官を勇退したばかりの、宮地貫一先輩(21回)を訪ねた。長浜の生まれで、東大法学部を卒業後文部省に入り、土佐中出身者では初めての事務次官として活躍した。

——土佐中の思い出から



前文部省事務次官 宮地 貫一氏 (21回生)

「昭和一四年に潮江小からすぐ隣りの土佐中予科二年(小学六年相当)に入学した。着物姿のオンちゃんがなんと五年生で、びっくりした。担任はカマスこと吉本先生だった。同級生ではH、O、須藤勉(故人)が軟派の代表格。禁止されていた映画館へ行ったり、阿部家(後の高知大学長)へ美人のお嬢さんを見に行ったり、戦時中とはいえ、結構楽しんでいた。」

「二七年の文部省入省前後、近藤久寿治先輩(6回)には大変お世話になった。結婚したばかりの僕は、大泉の近藤家にころがり込み、一部屋借りて住んでいた。長男(筑波大講師)もそこで生まれた」
——大変な激務をどう乗り越えたか、気分転換法は「酒と歌。前日のことを思い

一年上に何某というイバリ人間がおった。同級生一同で高知城のスベリ山へ呼び出して、シナイでさんさんなぐりつけた。先輩の尊敬を集めていた秀才は、伴正一(17回)さん。なにしろ試験の成績や作文は、みんな廊下に張り出すから、一目瞭然」

——戦後の東京では

「思うことがないよう、ぐでぐでんになるまで飲むと翌日すっきりする。しかしコップ酒をおおるほうなので、中休みに歌を歌う。歌は新しい演歌、肴は土佐の鮮魚に限る」
こう言って取り出したのが、なんとこの日発売の『浪花盃(五木ひろし唄)』の譜面。先輩はカラオケ泣かせである。とび切りの新曲ばかり要求するので、まずテープがない。ピアノの生伴奏となる。文部省きっての酒豪といわれ、並の官僚とは行動が一味違う。

——最後に母校や郷土へ

「司馬遼太郎さんが、四国四県でも高知が一番落ち込んでいるといっていた。子どもの能力には差がないわけ、家庭や先生がどう伸ばしてやるかが問題だ。他県の学校がどんなに努力をしているのか、高知の人達には認識不足ではなからうか」

出版レター

「甚田先生はだか日記」

田内瑞穂著

田内先生(古典)の体験録増補版。カマス、タコ、オンカンなどの「名物教師」の巻他。定価一、三〇〇円。四国写植発行。高知市朝倉一八〇—四。電話四四一六〇二二。代表 永野和宏氏(三四回)

●出版情報

▽倉橋由美子氏(二九回)

「シユンボシオン」福武書店

・定価一、五〇〇円。「最後から二番目の毒想」講談社・

定価一、一〇〇円。

▽島本征彦氏(三五回)

「武市半平太」沖積舎・定価二、五〇〇円。

▽塩田潮氏(四〇回)

「首領は何を見たか」講談社

・定価一、二〇〇円。「誰が闇將軍を倒したか」文芸春秋

・定価一、二〇〇円。

▽進藤貞和氏(三三回・三菱電機

名誉会長の「私の履歴書」(日

経新聞)が七月一日から連載中。

マイペース・マイプラン

——息切れせずに、コツコツと……

定期積金

希望積立
(相互掛金)

1000円積立定期

黒潮定額積立

高銀

高知相互銀行